

式辞

ようやく秋らしくなってきましたが、本日、ここに平成二十八年度卒業式を挙げて
きますことは、この上ない喜びであります。

卒業生のみなさん。ご卒業、おめでとうございます。

全教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。〈そして、今日までみなさんを支えて
こられたご家族・ご親族のみなさまにも、心からお慶び申し上げます。〉

卒業生のみなさん。われわれ教職員の共通の願いは、みなさんが社会の一員として、社
会に貢献し、幸せで豊かな人生を送ってほしいということです。これから始まる長い人生
において、たくましく歩んでいかれることを願っています。

ところで、学生生活はいかがでしたか。生涯の友だちを得ることができましたか。尊敬
できる先生に出会えましたか。入学の時に思い描いた夢を実現できましたか。みなさん
には、これからの人生が豊かなものであってほしいと思うと同時に、兵庫大学・兵庫大学短
期大学部での学生生活が、人生の大切な宝物の一部であってほしいと願って思います。

本学を卒業する今、どのような思いを持っていますか。これから歩む長い人生におい
ては、無限大の可能性とともに、これまでの人生の中で体験したことのないような大きな壁
にぶつかることもあるでしょう。

そのような時には、大学、短期大学での学びや経験を基礎としながら、さらに学び、柔
軟な思考を巡らせ、受け入れ、乗り越えていただきたいといます。そのためにも、みな
さんにはぜひ、それぞれが置かれた場所で、生涯学び続けてほしいといます。日々の生
活の中から、さまざまなことを見て、感じて聴き入って考える、その姿勢が、みなさんの
個性、智慧になっていきます。

最後に、私から、みなさんへのお願いです。みなさんそれぞれが本学で身につけられた「和」の精神を大切にしてください。

本学の建学の精神は、ご存知のとおり、聖徳太子の十七条憲法に示された「和」です。聖徳太子は、多くの名言と呼ばれるものを残していますが、一貫して、「和」を根本としています。

現代語訳では「調和」と表現されているものもありますが、自分の心を大切にしながら、他者の心も大切にする、他者の思いを受け入れることを説いています。一言で表現すれば、「互いを尊び互いを活かしあう」ということではないでしょうか。

本学は学校法人陸学園に設置された大学、短大ですが、学園訓として、「感謝」「寛容」「互譲」が掲げられています。当時、理事長であった河野申之先生が、建学の精神である「和」を伝えるために定められたものです。

- 「感謝」 生かされることに感謝すること
- 「寛容」 他者に心を寄せ相互に認め合い、信じあうこと
- 「互譲」 互いに譲り合い、助け合うこと

人として感じる心、共感する心、人への慈しみの心、思いやりに溢れた心を大切にしたいと思います。

それでは、卒業生のみなさんが、これからの長い人生をしっかりと歩まれ、健康で幸せでありますことを、心より念じまして、平成二十八年度卒業式の式辞としたいと思います。

平成二十八年九月三十日

兵庫大学・兵庫大学短期大学部

学長 河野 真